



No. 17

'72
文
京
祭



文化祭



後
夜
祭



体育祭

表紙

題 字 校長 石田弘正
デザイン 篠 田 真由美
カ ッ ト
榊 原 芳 江

学校近況

- 自治会再建さる
- 47年文化祭・体育祭
- クラブ活動状況

自治会設立に

あたって

荒井 三紀夫
比留間 功

足かけ三年に渡る努力の末、新自治会が昭和四十七年十月二十三日をもって設立された。設立されるまでには、言葉にあらわせない苦しみがあった、何度やめようと思ったかわからないが、『自分達の力で自治会を設立するのだ』という一念のために頑張ってきた。それだけに、総会における自治会設立の瞬間には言いたいも無い感激があった。

新自治会設立に至る経過は次の通りである。

四十四年十月

校舎がバリケード封鎖。後期役員選出期にあたっていたが、役員が選出されず、執行部の消滅、活動の自動的停止、その後幾度となく自治会再建運動が繰り広げられたがいずれも失敗に終わっている。

四十六年三月～末日まで

ある一部のものによる再建運動が起こったが一方的な再建方法によったため、再建されず。

四十六年四月

比留間等六人によって前月の一方的再建運動の実態調査を行なう。その後一・二年の各H・Rの議長を集め、実態調査報告と共に新自治会設立の呼びかけを行なう。

五月、自治会の必要性を、一・二年のみでクラス討論、下旬、3年に呼びかけ三クラ

ス集まる。

六月・一・二年連絡会合体

三年生の問題について話し合う

九月・H・R企画委員会動きだす、設立運動

は一時中断

一月・活動再開・三年全クラスより委任状をとり、自治会設立委員会結成。

四十七年四月

新一年生各クラスに自治会設立の呼びかけ
五月・新一年生が設立委員会へ加入。

会の進展があまりみられなかったり、自治意識の低下がみられたため、自治意識向上はかる。(全クラス回わる)

七月・規約原案作成委員選出

九月・規約原案に基づいて各クラス内での討論開始。

九月二十七日

第一回生徒総会(十時半～四時頃まで)クラブ問題で進展せず。

十月二十三日

第二回生徒総会(九時半～二時頃まで)規約成立とともに新自治会設立、会長代行(3・B荒井)を選出

十一月一日
新自治会発足

十二月九日
会長選挙

十一日

新役員のメンバー決まる

文京祭を振り返って

長谷川 博

これから文京祭の事を、全くの一個人として思い出すがままに書かせてもらいましょう。文京祭が始まったのは十一月十八日(出)の文化祭からでした、でも、僕らは最初十一日から計画だったんです。一週間遅れたのは、その日と次の日が定時制の文化祭予定日だったためです。実はこの時、定時制の生徒会長さん達と会ってみて、全・定合同での文化祭についても話をしたのでですけど、やはり合同は無理ではないかということで実現しなかつたんです、聞いたところによると今までもそんな話が出たことはあっても実現はしなかつたそうなんです。

文化祭の前日は朝から暗くなるまで一日かりで各自催し物の準備をしたのです。ところで、この日は、夕方になったら電気の使用でヒューズが飛んで校内はまっくらになってしまったんです。学校のすぐ近くの東京電力へ電話してみても、あいにく他へ修理へ出ていていつ帰るかわからないというので、その日はそこままで生徒を返してしまいまし

た。そして文化祭当日には特別に許容量を上げてもらって何とか事故なしでした。

さて、いよいよ文化祭当日ですが、折戸通りから校門の前に来ると、まず目にとまるのがあの個性たっぶりのアーチ、あれは僕の自慢のひとつなんです。美術部に製作を依頼したのですが、真赤な唇を大きく開けて、によつきり出た歯には、「文京祭」と書いてあるのです、でもみんなが歯に見てくれたかどうか疑問ですね。

今回の文化祭での各参加団体の催し物を見てみると、クラブ・同好会関係は、日頃の活動や、この日のために作った作品や、研究発表が主体になっているのですが、各クラスや有志の集まりでは、模擬店やバザー、おぼけやしきのたぐいが目立っています。(今頃ではどこでもこんな状態が見られるし、たしかにお祭りの場ではありますが、やはりこれでは文化祭の意義を再び考えてしまいます。)

それらの中で、その内容は別として最も注目されたといえば、三Aや三H有志らの自主製作映画だったと思います。一から十まで自分達の手で作ったわけですが、僕はそのテクニクはたいした事なくて、ようは「見せるもの」に作り上げた点だと思っのですが。

文化祭の様子といわれても、別に特別なものでもなく他の高校と変わらないと思います。

でもそういえば一日目の土曜日にちよとした事件がありました。夕方になりかけた頃でしたが、青ヘルの一団が校門前に陣どってアジ演説を始めたんです。どうやら反帝高評だった(文京生は一人もいなかっただけです)ようですが、それに対抗して校内の文学部も中庭でマイクを使って同じ様な事をやりだして、一時はどうなることかと思われましたが、しばらくたつと青ヘルも引き揚げ、それ以上の衝突はありませんでした。僕には何だか両派が我が校の文化祭をPRの場に使ったような気がしたのです。

後夜祭は二日目の文化祭を早めに切り上げ、その後校庭で、文京生のみで開いたのですが、少々しらくれムードでした。昔は提灯も使ったそうですが、今年は花火、フォークダンス、ロック演奏、キャンドルサーピスといったところでした。来年はひとつ景気付けにたくろうでも招待しましょうか。

さて、最後の体育祭は二十一日の火曜でした。その前の日は文化祭の後片付けと体育祭の準備をしたのです。この日は風が強く寒さの身にしてみる天気でしたが、みんな元気よく走ったり転んだりけつとばしたり……。でも体育祭という敬遠してしまう人が多く、わがクラスでも選手不足の実情で、非常に残念でした。

そんな具合で文京祭も二十一日には幕を閉じ、翌二十二日は代休、二十三日も勤労感謝の日と、ゆっくり骨休みをしたのでした。

クラブ活動の状況

各クラブ部長

野球部 加藤直彦

六十九年の紛争の時、消滅した形のままだにあって自治会が、やっと再建されたこと聞き、何となくも複雑な気分でした。私達が一年生の時から三年で卒業する迄、再建の動きはあっても実現はせず、「自治会」の有る、ということすら忘れてしまっていたみたいで、。クラブ費が出ない、という不満の声も、無所属だった私など実感がなかったし、それなりに各クラブとも活動していたように見えましたから、生徒自治会があり、クラブ費が降り、文化祭、体育祭が行なわれる——むしろそれが、「あたりまえ」なのだと思います。自治会再建の中心になった方々は、私達の三年の時の一年生。紛争で自治会がなくなりましたが、卒業後、学校に足踏み入れるたび、後悔めいた後ろめたさを感じてしまいます。思えばアンケート等にもあまり積極的に応じなかったア：なんて事も。会報のスペースが一段余りましたので四十七年度卒業生のひとりとして書かせて頂きます。

編集委員

自治会のない状況でクラブは、実際には存在しないのだが、先生方などの御好意により続けさせていただいていた。だからむろんクラブ予算などというものはでなかったわけである。たいがいのクラブは、部員どうしで金を集め、それで賄って活動をしていたようである。しかし、我々の野球部というものは、部員より集めた金だけでは賄うことができず、OB結束「球紫会」というところから多額の金を寄付してもらっている。この寄付がなかったら、野球部の姿はおそらく消滅してしまっただろう。また、「球紫会」によって選ばれた監督は、なかなか責任が重いようで、中には、アルバイトなどとして、その給料を全部とってよいほど都合してくれた人もいたということである。そして、めんどろにも活動日は、いつも我々の世話をしてくれる。その監督のもとで、我々は頑張り、特に一年は、グラウンドでみんなが怪我をしないようにと、四時間目終了後、昼食もとらずに石拾いなどの整備をする。ときには、グラウンド

整備だけで、退部してしまうものさえない。このようにむかしほどではないが、軍隊的な形式が伝わっているような気がする。しかし、我々はあらゆる困難にも耐えて、監督とともに思う存分汗を流し、期待を裏切らないように、これからむかえる夏の本大会めざして頑張りたいと思っている。

体操部

ある時は一本の棒を中心にグルグル回る。十センチの台の上をとびはね、回転する。又ある時は軽やかに空中を舞う。体操とは、まさに人間の身体でなしうる、最高の芸術ではないでしょうか。体操ニッポンと言われる程の数々の活躍は知っているとありますが、君は同じ人間の体であんなことができるのを、不思議に感じたことはありませんか？ しかし体操とは、それ以上につらい練習と努力が必要で、個人との戦いなのです。この体操を私たちは未熟ではあるけれど、征服しようとしているのです。始め、人数は少なかったけれど、みんなやる気に満ちていました。そして今、人数もふえ、互いに協力してますます頑張っています。転回で尻もちをつき、跳箱の着地で両手をつく。失敗をあげたらきりはありませんが、体操部員二十数名、体操が好きで好きでたまらない連中ですから、そんな失敗には負けず、更に新しい技術を自分のもの

にしようとして、常に練習に励んでいるのです。

柔道部

現在の活動状況は、早朝と放課後に一年生が主体となって、トレーニング（ランニング・腕立て伏せなど）を交えて、体力の補強に重点をおいて練習しているが、技術を向上させる為に、乱取なども行っている。

今までの練習は、技術面の向上に重点をおき、クラブの時間内では、これを中心とし、あとは各自で、トレーニングをするというような、方法だったが、各自の体力が、あまり向上していない為、現在の活動内容に変わったのである。

だが、クラブ活動の時間があまり長くないので、トレーニングをすると、あとの練習時間が短くなり、乱取などの練習を充分に行うことができなくなる為、これからは、各自でトレーニングをすることを徹底させ、時間内では、技術面の向上を中心とした練習を行ってゆきたいと、考えているのである。

水泳部 飯田 泰

現在、水泳部の部員は、男子十一名、女子十五名です。

練習は、シーズン中は水金ですが、大抵日曜日は大会があるので、休みは殆どありません。また、シーズンオフは月金で、毎週水曜日、プールへ行く以外は、陸上トレーニング

ングをしています。プールは、最近、学校の近くに出来た所へ行くようにしています。

出席状況を見ると、冬は泳げないせいかわりに比べるとあまりよくありません。

でも、みんな夏を目差して頑張っています。二期に、二年生から部長を引き継いだ私は、高校へ来て初めて水泳部へ入ったので、ろくに泳げないのですが、みんなを向上させるよう努力して行きたいと思っています。

蹴球部

我部のここ一年間の成績は、新人戦リーグで一位となり、関東大会、インター杯・両予選に出場する権利を得ました。関東大会予選は、途中、抽選負けし、ベスト十六で終わりましたが、インター杯予選は、二回戦で敗れましたが夏期大会では、第五支部代表を決める決勝戦に学習院高校と引き分けとなり、代表を決めるPK合戦により（四対三）で敗れました。しかし、その試合よりは、高く評価されました。特に我校は、自治活動がここ三年止まっているので部費もおりず、ボールなどもかえず、大変でありました。しかし、ここまで大会で頑張ることができたのも顧問の先生、OBの方々の援助によるもので、又、現役選手とかたくスクラムをくむことができたからであると思います。しかし、今年も自治会も設立されたので部費もおりることで活動もし

やすくなると思います。しかし、ボールのなかったときを考えて、部員一同より頑張るつもりです。

剣道部

今現在の部員、三年生六名、二年生四名、一年生十一名である。だが普段のけいこの出席が悪い。それでも良い時で八名、悪い時で五名、その内二名が二年生であとの部員が、一年生でしめている状態である。

練習の型は、第一に、準備体操、第二に、切り返し、第三に、かかりげいこ、第四に、自げいこ、第五に、切り返し、このような順序で行っています。準備体操では、ランニング、す振り、ラジオ体操などで、ときどき、ふつきんや、うで立てふせなどいろいろとりまぜて、行っています。

これらが通常の場合であります。特に春になると、新人部員が入部するため、彼らに基礎を教えなければならぬ。それには、まず広い場所が必要ですが、現在の道場では、むりがあります。ですから、春は二年生にとっても、一年生にとっても、いちばんつらい時期であります。

舞踊部

私たち舞踊部は、現在八人の部員で活動しています。活動日は毎週、月、火、木、金の四日間、火曜日に体育館を使用し、その他の

日は屋上を使用しています。そして、柔軟体操、足あげ、基本運動などを基礎トレーニングとして、発表会前になると創作舞踊を始めます。毎回一ヶ月前位からあせて作り始め、途中で行き詰まったりしながらも部員の努力でやっと完成させたものを、顧問でありよき指導者である亀井先生に、批判していただき補正していただいています。その発表会には、都大会と二階堂公演、それに校内で行なう四月公演・文化祭などがあります。現在四月公演のために、今度こそは余裕をもって作ろうと、一月にはいつてさっそく創作を始めました。そして今後舞踊部は、部員数をふやしてより大きなクラブにしていきたいと思えます。

陸上 上 部

一月一日。初詣。たくさんの人々の中の一入。陸上は孤独なスポーツです。自ら練習と戦わなくてはなりません。特に、冬季練習がそうです。毎日ファルトレック、サーキット、ロングジョック、ウエイトのくり返し。走っても、からだはなかなかあたたまらない。汗が出ていても、足は冷た——く、ちろんこちん。冷たいパーベルを持ちあげて……。でも部員は一人一人地道に練習しています。そして、自分の記録挑戦にがんばっています。十二秒〇から、十一秒九にかえるということは、とてもきびしいことです。

地道な努力に期待しましょう。
最後に……女子部員募集！

バドミントン部(男子)

去年の四月、僕は、この学校に入学した。その時このクラブは、二年生三人という、あまりめだたない存在だった。だが今は、一年も十人入部し、練習日も、週一回から、週三回とふやしやつと形式的にも一人前のクラブとなることができたというような感がある。ところで、一月六日に教育大付属高校と練習試合をした。結果はみごとに、まけてしまった。あとでみんなと話したのだが、「ダブルスのコンビネーションができていない」というのがでた。考えてみれば、僕たちは、組をつくっていない。そのため、試合中に、ゆずりあったり、かちあったり、とても見えない感があった。僕はこのコンビネーションは、試合の時だけでなくクラブを続けるうえでも必要だが一日や二日でつくれるものではないと思ひしられた。

部員が一つとなつて、バドミントンに、勉強にと、とりくんでいきたい。我部は、まだまだこれからというところだ。

バドミントン部(女子)

バドミントンの女子部員は現在二十五名程で、四月の入部当時はかなり減つたものの、設備の乏しいバドミントン部としては満

員というところですが、でも、今年からは(1)一面のコートが二面に増え、(2)練習日が週六日(つまり毎日)になり、さらに(3)自治会から予算が降りる、という良いことづくめになりました。これで何の実績もないとなると、ちょっと悲しいわけですが、都内の色々な練習校をさがして試合をし、また時には、男子部員にも協力してもらつて、できるかぎりの努力はしているのです……。

バドミントンというと、まず「遊び」の感じがどうしても先に出てしまい、スポーツと解される方は、ほんの少数でしょう。なんといっても親しみ安い競技ですから。できることなら、その印象を打破することも、今後バドミントン部の目的としたいと思います。先輩の方々も文京にいらした時は、いつでもけっこうですからフラリとでも体育館にいらして下さい。

テニス部(男子)

昨年の夏、念願の全国大会に出場することができた。大会での成績は振るわなかったが、よい勉強になった。先生、先輩、友人の激励本当にありがとう。

例年通り夏休み一週間、男女合同合宿を行なった。それこそ同じ釜のめしを食つての生活は、チームワークの強化、個人への技術向上に役立った。

現在部員は一、二年合わせて十四人。冬を除いて、授業の一時間前に早朝練習。乱打が主体である。一汗かいてからの勉強は気持ちいい。昼食後のコート整備。放課後の決められた時間内の活動↓軽くからだをほぐしてから、乱打、前衛の基本練習（ボレー・スマッシュ）後衛のフーストサーブ。サーブレシーブ等々。同じボレー練習でも色々変化を加え、きのうとは違う今日の練習にころがけている。春夏秋におこなわれる各大会を目標に、元氣いっぱい「オリヤー」と声を出して白球を打っている。

テニス部（女子）

毎年、どのクラブでも、新入生が入部してきます。テニス部の、特に女子部では、その数は大変なものです。ですから、当然退部する率も、高いわけですが、昨年はどういうのか、退部者が少なく、現在では、マンモスクラブの一つです。テニスコートは、一応三面ですが、男子が一面使うので、二面です。しかし、充分な面積のコートではないので、練習に苦心しています。少しでも、一人の決められた練習時間がオーバーすると、あとの練習に影響して、大変困ります。そういう点で私たちは「時間の大切さ」というものを、身にしみて感じています。練習状態のことでは私たちのクラブは、いつも、コートから声が

聞こえるというくらい、ほとんど休みなくやっています。それだけは、自慢できると思います。でもその効果があるかどうか…。人数の問題は、そこにも関係してきます。いずれにしても、女子テニス部は、各人が一生懸命に、少ない自分の練習のうちこんでいるのは確かなのです。

バレーボール部（男子）

僕達バレー部は全部で七名。これは他のクラブに比べけっして多いとは言えない。それと云っては何だけれども、あまりハテな活動はしていない。たいていが個人的なプレー中心になってしまふ。たとえば、ランニング、体操、体力トレーニングから入り、対人パス、マン・ツー・マン、アタックなどだ。だからチーム・プレーは、試合前だけになってしまふ。

しかし、それでも自分がバレー部員であること、自分がいなければクラブがうまくいかないことを一人一人自負している点では負けることはない。

バレーボール部（女子）

我バレー部は、四十七年度から六人制バレーに転向したクラブです。まだ全部に慣れてはいませんが一生懸命頑張りたいと思っっています。今まで苦しんだ部費の事も新しく成立された生徒会で解決されたし………あとは春

のインターハイで勝つことだけが目標です。卒業されたバレー部の先輩方！余暇のある時は、バレー部へいらして練習を見てやってください。私達は大歓迎いたします。へオワリン

バスケット部（男子）

現在男子バスケットボール部は、二年三人一年四人という状態。でも皆バスケットが好きでやりたい人ばかり。そんな中でもたまには三人四人という練習があるけれども皆春の大会を旨ざして頑張っている。昨年は新人戦二回戦でストップしてしまつた。

現在我々のチームの目標は、身長があまりないためにデフエンスを強化して走って走りまくるチームそして部員全部があつて走ることだ。それでも練習は死にそうでつらい時もあるけれど、試合に勝つと思つて練習している。でもそんな練習も今では一日の行事みたいなもので練習後の充実感は、なんといっても気持ちがいいものです。

バスケット部（女子）

バスケット部は、現在、顧問渋谷先生、鬼コーチ金木氏の監督の下に、一年生八人、二年生九人で活動しています。活動日は、火・木・土は体育館、月・水は外で練習をします。私立校などにくらべると、極端に練習時間不足なのですが、そこは、金木氏、OBの適切

な指導と、練習内容、そして我々のバスケットにかけける情熱でカバーしています。

新人戦では、一回戦でトキワ松を破り、二回戦では、十文字をダブルスコアで破り、目下、三回戦にそなえ、練習中です。

土曜日など、OBがいらっしやうして、練習相手になって下さいますが、OGがいらっしやうしないのが残念です。この紫句をお読みになっている頃は、新人戦も終わっている事でしょうが、次の大会のためにも、OGの方に、是非我々の練習を見て、助言をしていただきたいと思ひます。

卓球部(男子)

現在、私たちは二十名程の部員がいますが一・二年生を主体とし活動日には体育館やグラウンドで汗を流しています。

練習内容は基礎を重視して、実力に応じてそれぞれが解放的に活動しています。

試合は月に一度ぐらいありますがなかなか上位の壁は厚く良い成績が残せません。

特に感じるのは私立と都立の差で、これは練習時間が影響するものだろうとはわかつているのですが、定時制のある文京では自由がきかないようです。

その対策として「充実した練習」という事が云えると思いますが、基礎トレーニングと共に成長のある練習をめざし努力していきたい

と部員一同がんばっております。

自治会の子算を部費としてフルに活用し、充実したクラブとしていきたいものです。

卓球部(女子)

私たち卓球部の部員は現在、三十名です。

活動日は月、水、金が体育使用、火曜日がトレーニング又はミーティングとなっております。去年一年間の成績は、新人戦においては、あまりふるいませんでしたが、関東大会において、個人戦ダブルスともに頑張りました。ジュニア選手権は、文化祭と重なり、棄権しました。又北高との練習試合では、十四勝一敗。ここまでこられたのも、先生方や先輩のおかげです。現部員の一年生の人数も多く、文京卓球部は、これからだと思います。唯、これからは、もっと厳しいトレーニングをして行きたいと思ひます。

文化部

地歴部

地歴部は文京高校の中で最も伝統をもった部であると思ひます。現在に至るまでには、先輩の皆さん方の苦勞や努力によって乗り切ってきた沢山の事があつたと思ひます。その

中の一つとして、学内紛争によって生じた数々の障害があると思ひます。このことは多くの部も同じと思ひますが、部にとつて大きな衝撃であつたし、多くの影響をもたらしたと思ひます。例えば、自治会費が使用できなかったため概報が出版できなかったことなどです。又、一概にこれが原因とはいえないが、部活動の沈滞・部員数の激減・その他部の発展にマイナスな面が多く生じた。しかし、このような中でしたが、顧問の先生方を良きアドバイザーとして、夏の巡検・概報の原稿作成など、絶えることなくつづけられたということは不思議とさえいえるかもしれせん。昭和四十六年度は新潟県の漁村出雲崎・四十七年度には福井県の窯業地織田(越前焼)へ行き、調査や地元の伝統的なものに接することにより多くの事を学ぶことができました。又、四十七年度より再び催された文京祭においても進んで参加し、好評を得ることができました。

これらのことは、地歴部員が地歴部という名のもとへつに集まり努力した成果であると思ひます。現在では部員数も以前に増して二十名と大世帯になりました。ますますファイトを燃やしてよい研究を行つてゆきたいと思ひます。この紙面をおかりして、諸先輩方にお札を述べるとともに今にも増して、きびし

く温かく御支援お願いいたします。先輩方の期待にこたえられるよう、より努力していきます。

生物部

我々生物部は古くから在り、極一部分ではあるが、アルバムや部誌などにその面影を留めている。それはまた新人部員たちに活動内容などを知ってもらうのにも利用され、年と共に量を増している。新人部員歓迎ハイキング、荒川調査、夏期遠征調査会（合宿）、コンフリー農場、文化祭、追出しコンパ、親交を深めるためのハイキング、等の写真が迷文句と共に載せられている。

現在、部員三十名弱で、普段の活動は生物を扱う関係ほとんど毎日のエサやりや、各調査のまとめ、個人・共同研究、その他旅行等の係を分担し各自の自覚のもとに活動をおこなっている。これは自由で良いといえるがそのために活動は衰えがちであり、最近はその盛んであるとはいえない。そこで部会等で活動内容について話し合い、今後は部誌の製作、共同研究の充実などに励んでいきたい。また学年会や学年誌によって、お互の親交を深め合って行きたい。

物理部

物理部の活動範囲は、ハムや物理の原理を利用したオモチャなどの一般的、娯楽的なもの

のから、専門的な実験まであらゆるものをあつかっているが、四十七年度は、特に、テレビの排品を利用したオシログラフを作ってみた、これは、どんなテレビでもブラウン管さえうつけばかんたんにできるのである、しかし、かんたんに波型はるのであるが、オシロとして使うには、少々入力の周波数帯域がせまいのが難点であった。

四十七年度は四十六年度と同様、部費というものがまったく出なかつたので、機具などの購入に不自由して思うように活動ができなかつたが、各自でハムなどをやっていたようだが、最後に、部員が少々ものたりなかつたのが残念である、もつとにぎやかにやりたかつたと思う。

演劇部

演劇部の唯一の大きな活動といえば、文化祭での発表である。去年は「食欲のないおはなし」という劇にとりくんだのだが、前年に比べて客の入りもよくなり、また男子の入部により劇に迫力がでてきて、まあまあのお出来だつたように思われる。

何にしてもみんなで一つの物を完成するには、大変な努力と協力が必要である。よく運動部のスガ「チームワーク」という言葉を使うが、それは演劇部にも同じことであり一つの劇の幕が降りるまでは、それは色々な

ことがあるものだ。責任者である私の無力のせいも、はつきり言つて演劇部はあまりまとまりのあるクラブとは言えない。何人かの人をやめて行つてしまつたりして、重苦しい空気の中で話し合いなども行なわれた。そして今度の劇でやつと少しまとまつてきた演劇部である。これからの基礎練習においてもこのまとまりを何とかこわさぬように、協力してやつて行きたいものだ。

書道部

文京の書道部といえば、まず誰もが思い出すのがあの『台東展』であろう。これは、毎年夏休みに催される展覧会で、我クラブもこれに参加しており、今までもたくさん賞をいただいたほど。でもそれにはやはり、時間をかけ、一つの書をていねいに仕上げる必要がある。だから今は、みな、その展覧会出品のための練習を、短かい時間ではあるが、しているの。よりりっぱな賞を得るために、けれど、ちよつと一年生が少なすぎるような気がするの。『書道』というのは、地味なものではあるが、私達、若者が筆をもって書く、これは、素敵なことだとは思いませんか。

書道とは、文字をかく芸術のみちであり、芸術とは、美を表現する人間の活動、かつその結果、出来あがつたもの、であると思う

から…。

華道部

華道部は、現在部員数十二名で、小数がらもがんばって活動しています。

毎週水曜日、被服室でお花をいけている人たちの中にも、なか女の子らしきみないなものが感じられます。

ただ、今の状態というのは、お花をいけて先生にみてもらって、いけおわればもう帰るというだけなので、話し合いというものが、全く行われていないのです。

やはり、華道部をもっとよくするために、話し合うということは必要だと思いますので、これからは、そういった話し合いをどんどんやりたいと思います。

そして、これからももっとと先輩たちにまけないくらい良いクラブにしていこうと思います。

箏曲部 (渡部千寿子)

現在の箏曲部員数は、三年生が三人、二年生が七人、一年生が三人の計十三人であるが、二年生三人の入部が確定している。活動は、週一回火曜日で先生に来て頂いている。練習時間は、月火金土の四日間を当てているが、個人の琴の有無があるのでやはり火曜日の活動が、部員全員という意味では意義のあるものになっている。場所は被服室でこれは昔か

らである。行事としては、新年会や先生のお弟子さんと一緒にお弾き初めに参加することなどがあげられる。顧問は二年生が、全員A組なので引き続きやってくださる宮川先生と荒井先生にお願いしている。現在の大きな問題点はやはり予算が少ないことだが、新生徒会に期待したい。

生徒会の中においては、女子ばかりだし地味な存在であるが、現在の先生、先輩の方々が、創立したこの部をより充実し、もっと多くの人達に琴の楽しさ、伝統の美しさを知ってもらい、琴をやっていることに自信と誇りをもってこれからも活動していきたいと思う。

茶道部

我が茶道部は現在、三年生も含めて部員十六名です。内女子が十五名、男子はわずか一名です。彼はまだ一年生ですが、独立心が強いようで、仲間を集めようともせず、一人黙々と稽古に励んでいます。稽古日は毎週土曜日です。盆点前、風炉点前を済ませますと、おたなを用いたお点前へと移り、これらの基礎をみっちりとしにつけます。女子部員は、三年生が三人、二年生が六人、一年生が六人です。お稽古にはみんなとても熱心で、ほとんど休みません。

佐竹先生もお元気で、毎週お稽古にいらして下さいます。時おり、OBの方が練習をみ

に来て下さいますが、そんな時、先輩が学生だったころの茶道部のおはなしを聞き、今のほうが良いとか、昔はこんな点がよかったとかさわいでいます。でも、茶の心は常に変わらなないのだと知らされ、みんな、むずかしいと知りながらも頑張ろうと思うのです。かつて先輩の方々が残してくれたものを守り、さらに新しいものができればと、少し欲張りながらも、部員一同、女らしく(?)活動しております。

美術部

美術部の現在の活動は、石膏デッサンが主になっている。部員は二十八名で一年生がいちばん多い。しかし出席率は、いちばん悪いようである。去年の主な出来事は、まず夏の合宿と文化祭と三校合同展である。文化祭と合同展は、その間が一週間たらずしかはなれてなかったで、同じ作品をださざるをえなかった。合同展の会場は北園高校で、リヤカーを二台借りて、二学期に描き始めてどうにもこうにも手におえないという感じの合同作品と各個人の作品全部で三十点ほどをそのリヤカーに積みこんで、北園まで歩いていった。往復で約一時間がかかった。合宿は伊豆の堂ヶ島に行き二泊三日であった。今年の夏にも合宿をやりたいと思う。

クラブ活動は、各自の自覚がない限り発展

はのぞめないのではないかと思う。

吹奏楽部

吹奏楽とは、「木管楽器・金管楽器を主とし、打楽器を加えて演奏する音楽」これは国語辞典での定義です。トランペット・トロンボーン・フルート・クラリネット・ホルン・e t c、これらの楽器を使って、音をつくりだしていく、これが吹奏楽なのです。吹奏楽というより brass band といった方がなじみやすいかもしれません。

私がいちばんうれしかったのは去年の十一月に行なわれた文化祭です。たいしてお客もはいりませんでしたし、演奏も決してじょうずではありませんでした。(ヘタだと言わないうところが多い)それからたいへんミスが多かったこと、うわさによれば、まあまあ聞けたのは、一年生による木管アンサンブルだけだったとか、しかし、本番よりも練習の段階でとても充実していました。連日六時半までの練習、終わったあとつかれて、しゃべるのもいやになったこともありましたが、でも久しぶりに「吹いたなあ」っていう気持ちでした。屋上で寒い中を風で楽譜が飛んでしまったり暗くなつて楽譜が見えなくなつてもまだやっていたり、そんなことでも部員全員力を合わせてやったことですから楽しい思い出として残ると思います。ですから、文化祭が終わつ

た後、ほつとしたと同時にさびしいような気持ちになりました。

吹奏楽部のただひとつの悩みは、男子部員が少ないということです。そのために、今年の春入学する一年生には大いに期待しています。

最後に、諸先輩が築きあげてくださったこのクラブをよりいっそう充実したものに、次代に手わたしたいと思います。

家庭科部

家庭科部は、三年生が十六名、二年生が九名、一年生が十二名で、一応三十七名で活動しています。一学期頃は一年生が三名位しかいなかったのですが、一・二年生が三年生にちよつと圧倒されたようにも思いましたが、一年生の数もふえ、グループなどをつくつて活動するようになり、だんだんまとまってきたようです。

活動は毎週金曜日で、週にたった一度しかありませんが、料理室でクッキーやちよつとしたケーキを焼いたり、被服室でぬいぐるみやエプロンなどをつくつたりして、計画をたてて楽しく活動しています。

文化祭の時には、各自で小さなぬいぐるみだとか、ペーパーフラワー、バッジ、ろうそくなどをつくつたり、又、料理室でクッキーとパウンドケーキを焼いて売りました。その

ための準備もたいへんでしたが、皆一体となりがんばって、家庭科部としてはずかしくないバザーができたと思います。ただ、もつと前から計画をたてて、もつといろいろなものをたくさん出したかったというのが心残りの点でした。

同好会

フォーク同好会(柳下正樹)

私たちは、好きな者同志が集まったサークルであるからその活動力たるやものすごい。週に二、三回集まることもよくある。(これと言つて活動する日は、決まっていない)その時の活動内容は、ただフォークソングらしいものを歌う。ときにはみんなでいっしょに歌うときもある。そういう中から相互の友情を深め合い、人生の真理を深く探求し、人間の本质を見きわめるように、各自が、自覚をもつてこのフォーク同好会に臨んでいる。

また、発表の場を多く持つと努力しているが、発表をするというそれ相当な金がかかるので、発表は、年一度行なわれる文化祭に依存している。

ロック同好会(太田鉄也)

私たちは、同好会活動をはじめてまだ七ヶ月しか、たっていない。同好会々員は、二十名以上(ほんとうに活動している人は十人ぐらいですが)います。活動は、最近やつと波にのって来たようです。

活動内容は、週に一回ぐらいの定期練習をし、学校では、年に二、三回のコンサートを開く予定。また学校外では、年に五、六回のコンサートを開きます。しかし、一番大きなコンサートは、文化祭の時です。去年の時は、他校のグループも交じって十三のグループが出演し、中には、プロまで来てくれて大成功をしました。また四月には、新入生歓迎のコンサートを開く予定です。

これからも、コンサートを開いて、私たちがだけでなく聞く人みんなが楽しめるコンサートが出来るようになりたいと思っております。

数学研究部

私達のクラブでは、予算などその他の事情から、今年はまだまとまった研究はせず、各自がそれぞれ「自由研究」という形で行なっていました。

例えば、それぞれの学習などにおいての不可解な点をお互いに持ちより、相談したり、また、興味の持てるような問題を持ちより、それを解いたり、あるいは、みんなで「数学

パズル」のようなものを作り、解き合ったりしていました。

今年度は部員の希望などにより、数学を中心とした自主研究的なものを行なってきましたが、来年度からはまとまりを持ち、計画性のある活動をしていこうと思っております。

鉄道研究同好会

鉄道研究同好会、略して「鉄研」は今年で三年目のまだできたの同好会であります。そのため昨年までは会としてのまとまりに若干の問題がありました。これは鉄道研究というジャンルが他のクラブ、同好会にくらべ大に広いからであります。たとえばこの中には鉄道写真を始め乗車券の集収、模型、車輛、線路、鉄橋、トンネル等々のハードウェア的またりフトウェア的研究さらに法律、法規に至る多種多様なものが、鉄道研究と一口で言うなかにふくまれていっているのです。したがってこれらのものを会として一本にするのがむずかしい所があります。そこで昨年文京祭には各自の研究を持ちより模型を中心とした展示を行ない約五百名の方々に入場していただきました。今年も文京祭を一つの目標として会として一つのテーマに臨んで見たいと思っております。

落語研究会

(十代目会長・学舎 文京) ぶだん、ほうつとしてゐる奴は、いざとな

るとしつかりするなんていいですが、そこへいくと、落研の連中はぶだん、見事にほうつとしてゐるから、たよりにしてると、いざとなつて余計ほうつとしたりして。そんなすつとほけた所が、今の落研の長所であり、多いに短所なのです。

今迄いろんな失敗をしてきましたが、失敗の後には、必ず改善されてよくなつていくんですが、それで成功すると、その後必ず失敗してしまいます。とにかく先輩方には世話かけ通して、頭が上がりませんが、実はかなりでかい態度で接してゐるんですが、部会はなごやかなんですが、なごやかすぎに部会にならないくらいです。これから、この落語みたいな連中の落語研究会はどんなふうになつていくのか当の本人にもまるで見当もつかない次第です。



十字路

十六才の日日

小野 明

年旧る毎に、遠い日日に遠い人に想いを寄せる感情が衰える。時折、強制された無聊の故に、過去形でしか語り得ぬ時の流れに心を凭せている自分に気づく瞬間があり得ても、記憶の糸をひとつひとつ丁寧に遡行する意思力は最早私にはない。過ぎ去った『なくもかな』の過失を切齒扼腕する事も、あり得たかもしれないぬ人生を穿さくする事もなくなつた。仮定人生をやり直す事が可能だとしても、私は、私が生きた如く過失のみ多く実り少ない月日を再び繰り返したに相違ないのだから、十六才の頃、極めて平凡な振幅の小さい、

昨日と明日が重なれば相互に識別しえぬ平板な日日を過した。自分の能力が他者より確實に劣るという意識に、人に対する好悪の落差の激しさが手伝い親交する知友はいなかつた。朝な夕なに同じ教室に学ぶが故に級友と目礼を交わす事はあつたにしても、言葉を交せば自らの思考力の貧しさ故に、自らの知識の欠缺故に取消し不可能な惨めさを味わう事になるかも知れず、日常の些事に関してすら会話の記憶はない。友人は居らずとも、話相手が欠如しても、そのこと故の痛痒を感じた事は終らない。人はひとりて生きるに如くはなく、それが仮定不可能だとしても、他者と手を結いで生きた処で、その事に何の価値があるわけでもなく、その事により何がどう変わるわけでもないのだから。他者と連帯しうる生活の領域がなく、人の関い合いの環の中に自ら占める位置がなかつたとしても何を悲しむ事があろうか。自らの夢や希望は自らに託す他はないのだから。其の貧弱な論理が十六才の私を支えていた。

泉鏡花・徳富憲花・川上眉山・山路愛山・一葉・樗牛・四迷。誰に師事したわけでもない故に選択された書籍の範囲に一貫性はなく、文語体文章を好んだ故に、其の凡てが明治期に集中した。図書館から借用する書物の真新しさにより、明治初期・中期の著作が読書量の多い学友たちの関心を殆どひかない事を知るにつれ、武男と浪子に心奪われる自分が時代遅れに思われ恥しかった。そのため「不如帰」「婦系図」・「金色夜叉」などは自宅で読む事に努め、有島・志賀・谷崎・川端・堀辰雄・伊藤整などの作品を学校で読む様心がけた。十六才の大半を書物に費したが読む事のみが目的であつて看れば、作品や作家を媒体に何をどうしたわけでもなく文章を書いた経験もない。なす事もなく、時間の費し方も知らぬ故、おそろしく退屈な句話点のない日日を書籍の一行一行で埋めて行く作業を思いついただけなのであろう。十六才の日日を回想しても、忘れ得ぬ思い出があるわけでもなく、莞爾とした明眸皓齒の人がいたわけでもない。僅か数冊の古い書籍が思い浮かぶのみである。あれから七年が過ぎた。折節、書肆に立ち寄る毎に、購う可き書籍もなく、購買する意思もないままに、嘗て読んだ書物を手に取りあてもなく開いて読み返す。語る事とて何もなく、飾るものとして何もない人生であつても

人は自ら生きた日目が懐しいのかもしれない。
遠い日日の一回性故に。

昭和四十七年十二月十日記

昭和四十二年三月卒

文京生だった頃のこと

二十三期 齋藤 まち子

高校時代の思い出を、という原稿の依頼を突然受けた時、私の頭の中を三年間のいろいろな思い出が走馬燈のようにかけめぐっていた。文京を卒業してまだ二年もたない私の心の中には、一つ一つの思い出が、まだ大切に保存されているのである。何といても切り放せないのが野球部との思い出である。暑い夏のさなか、汗と埃でもみくちゃになって毎日毎日ひたすら一回限りの試合のために練習に励む部員たちの姿は、ともしれば精神的に不安定になりがちだった私の心を、知らず知らずのうちに支えてくれたような気がする。前年に明大中野に九回で逆転負けした時のくやしきなどが奮起を促したのか、地味な努力が実を結んで順調に勝ち進み、神宮球場で、保坂投手を擁する日大一高と対等に戦い、破れはしたが、ベスト十六にまで進出した時の心が湧くような喜びは、マネージャーという仕事に対して疑問を抱き続けた日々、日々のことが嘘のように思えたものである。

また、クラス単位で行った遠足もなつかしい。夜に文京高校を出発して、狭山湖まで一晩中かかって歩き続けたこと、また、夜行列車で泊りがけで裏磐梯まで行ったことなどはクラスメートの心の絆を生んだのではないかと思う。

そしてその他に先生方の思いやりある御指導、途方に暮れたあの紛争、そして最後まで打ち明けられなかった、ある人への恋心など私の三年間の文京生活は、優等生というレッテルに追いかけられ、決して楽しい思い出ばかりではなく、むしろ胸を痛めた日々の方が多かったような気がするけれど、今の安逸な生活からは得られない何かとても貴重なものがそこにはあったような気がするのである。



〔退職された先生方〕

田崎幾太郎先生（国語）

〔転任された先生方〕

平田邦男先生（物理）

山梨大学へ

大畑正一先生（社会

板橋高校（教頭）へ

山口正光先生（数学）

小石川高校へ

須田肇先生（事務）

北豊島工業へ

〔新任の先生方〕

柴崎勉先生（数学）

大塚義雄先生（社会

田村悦子先生（国語）

鈴木和子先生（事務）

照屋至傑先生ご逝去

先生はながらく休職、療養に専念されておいででしたが、四十七年六月十六日ご永眠なさいました。深く哀悼の意を表しますとともに、おふたりの方に思い出を綴っていただきました。

編集部

照屋先生の思い出

横山正明

目蓋を閉じて三十余年の歳月を遡って見ます。そこに物理学校の校庭が浮びます。日頃机を並べて勉学に励んでいた照屋先生がサーベルを腰に下げて壇上に立っています。私は身体が大きいので軽機関銃を担いでいます。今でも先生の勇姿がはっきりと頭に蘇ります。

終戦直後、たま／＼荻窪駅の鉄橋でばったり先生と出会いました。「横山君、君は何処に勤めているのかね。」「山水中学に勤めています。」「どうせ教鞭をとるなら、都立の方がよくないか。」「考えが決ったらその折は宜しくおたのみします。お互に頑張りましょう、さようなら。短い会話でしたが、この照屋先生との出会いが私が豊島中学校今の文京高校に奉職するきっかけとなり、以来二十五余年の

先生とのお付き合いがはじまったのです。

本郷元町の校舎での先生の生活は二十四時間勤務でありました。校舎内に住み、昼は共に私達と教鞭をとり、夜は定時制の主事として奥田校長の許で校長の手となり足となつてよく活躍されました。深遠の思考と沈着な行動とがともなつて私達の同僚を導き、教室においては嚴格微密な教授法により生徒達の尊敬的でありました。卒業生の多くの人々から「先生の授業時間は厳しさの中に常に暖みを感じました。」としば／＼聞かれました。特に今はなくなつたが旧体育館の建設に当つてははかり知れない苦勞をされ、学校PTA、教育庁三者の要となつて立派に竣功させ、この大塚の地に「文京」の教舎を再建させる端緒をつくつたのであります。

奥田・稲崎・山田三校長時代、教頭としてひたすら学校の充実に誠心誠意努力をされました。

その間に校庭の三分の一を占居していた大塚中学校の立退の際には校長が正面に立つのをさけて教頭として「辞表」を懐にして豊島区長に立向い、烈しい論議の後、頑迷な区長に立退きを承諾させたことなどは権勢を恐れず正しい信念のもとに戦つたものと思われまふ。これらのことがら古い先生方しか知つていない話でしょう。

残念なことに病をえて闘病生活に入られましたが、ただお独り病院にて摂生療養に努力されて三年後には健康を回復されて復職されました。学校に帰られて授業を楽しまれましたが私達の先生に対する配慮がたらないためか一年有半にして再発され、また淋しい病院生活に入られました。それから四年の後、薬石効なく帰らぬ人となつてしまつたのです。

お見舞に行つた際、お身体の調子がよいときは話上手なのでなか／＼帰るチャンスがない程学校の様子等を話合つて一日も早く再び学校に帰られる日を夢みたこともありましたが、常に学校の事を思い、ご家庭の事に心をくばるよき先生、よき父として私の心に深く刻まれて居ります。

尊敬すべきよき同僚、またとない知己を失つたこの悲しみはなか／＼私の心から消えることとはないでしょう。狭山の岡に永遠に眠る先生の御冥福を心からお祈りして稿をとじます。

照屋先生のこと

旧制豊島中四期 静谷晴夫

昭和四十七年八月十七日の昼、私は勤務先の病院の医局で家からの電話を受け、「え、照屋先生が！」と、受話器を握ったま、絶句してすった。先程、文京高校の西岡先生からのお知らせで、照屋先生の急逝を聞き、急ぎ私に伝えてきたのだった。范然とつっ立ったま、目をつむる私に、「おい、静谷どうした」と例の特徴ある抑揚で、先生の声が呼びかけてこられた。「バクさん」と我々が愛称した、鼻下のあのチョビヒゲと、黒ブチの眼鏡の凹い顔が大きく笑っている。「先生、先生は本当に死んで了われたのですか？」と問いかける私に、「そうだよ。お前が早く病院をつくって俺を呼んで呉れないからさ」と眼鏡の奥の丸い目をわずかに微笑ませて消えて了われた。照屋先生は、私達が豊島中学五年生の時の担任であった。当時は大塚の焼け跡校舎から移り、水道橋の元町小学校に間借りしていた時代であったが、先生は御一家で、講堂隣りの二階の部屋に住んでおられた。どこの家庭も生活が非常に大変な頃であったのだが、先生はいつもしちんとした服装をして居られた。

数学担当であられたので、我々が直接の授業を受けたのは微積分であったように思われるが、きびしい中に非常にユーモアがあり、問題が出来ない、よく二本指でオデコをぐんと押されたものだった。皆の協調心の育成のために机をグループ毎にまとめて勉強させるなど、クラススの運営に非常な苦心を払っておられた。

卒業後数年の間は、クラス会を開いたり、葉山の海に行ったりしたほか、同窓会の用などで母校に向った折など、年に数回はお会いできることがあったが、こ、十数年程は、全くお会いしたり、お話ししたりする機会が持てなかった。

私の結婚式の折には正賓として御出席頂いたが、その時のテーブルスピーチは月並の祝辞ではなく、本当に血の通った恩師ならではのお話で、後日、医局の何人もの先輩方から「あの時のあの担任の先生のお話が、非常に心に残っているよ」と時々話された程であった。私には今でもあの時の先生のお姿や話の内容や声が、はっきりと思い出される。

先生が肺結核で手術をされ入院されておられた頃にはお見舞に伺ったこともあったが、その後良くなるれて学校に出ておられるようになった。その後時々お具合が悪く、入退院を繰り返されておられた。その後時々お具合が悪く、入退院を繰

り返されていると聞き、結核にしては変だなあと思っていたが、それがまさか術後の血清肝炎のためであったとは全く知らなかった。ましてや、それが肝硬変にまで進行しておられたとは……。

昨年四月、十数年振りで同期会を開いた折、先生は御入院中と云うことで私が絵をお持ちすることに預かったが、仲間と一緒に御見舞にあがる筈が、つい延び／＼になつて了つていた。お通夜の晩に御自宅にお届けし、先生の御遺影の前にかざつていた。いたが、御焼香させていたゞき乍ら、もつと／＼早く伺つていたら、先生の手が握れ、お声が聞けきつと大喜びして下さつたであらうにと、申訳なさに頭も上げられなかった。

先生は、私が一人前の医者として立つてゆける日を非常に楽しみにしておられた。お前が病院をつくつたら、俺が事務長で行つてやる。早くしろよとよく話しておられた。十数年の病院勤務医も今年で止め、漸く自立することにした。小さな医院だが、先生に御覧頂けないのが本当に心残りであるが、先生の御期待の万分の一でも果して喜んで頂けるよう頑張るつもりである。

先生の御冥福と御遺族の方々の御多幸を心からお祈りして筆をおく。

昭和46年度 都立文京高校同窓会 会計報告

昭和46・4・1～47・3・31の間の会計は次の通りになります。

昭和47年3月31日 会長 渡辺 剛 彰
 会計 太田 敏 夫

監査の上、正確であることを認証します。

会計監査 河野 一郎 三
 " 榎本 幸三

1. 財産目録 (47.3.31)

イ 貸付信託 (基本財産)	2,990,000円
ロ 現金	355,224円
ハ 物 品	①両開き書庫(1)、②書類入れ(1)、 ③手提金庫(1)、④机(2)、 ⑤椅子(1)、⑥ファイル(1)、 ⑦ストープ(1)、
ニ 郵便口座	890円
ホ 奨学基金	91,438円
ヘ 会館建設基金	73,121円

2. 現金

① 収入	754,264円	② 支出	399,040円
繰越し	221,826	経常費	390,040
利子配当	205,903	各部会計 33,000 内 会 報 278,300 (含送料) 人 件 費 22,000 通 信 費 16,730 運 営 費 40,010 会館建設基金 5,000 奨学基金 4,000	内 訳
信託満期	300,000		
名簿代	9,000		
郵便口座より 払出し	15,000		
雑	2,535		
③ 繰越し	355,224円		

四十七年就職状況

東京電力 小暮 順司
 NHK 山下 垣雄
 安田生命 内田里枝子
 サッポロビール 宮本季代子
 富士銀行コンピュータ 石井 薫
 三井生命 井山 明子
 " 榎原 芳江
 江東区役所 矢沢 英子

住金物産 石塚加代子
 富士銀行 大嶋 彩子
 富士銀行 大湊 容子
 全購連 荻野まき子
 三井物産 加田 正子
 第一勧銀 阿部 裕子
 " 桜井 久子
 興業銀行 長山 悦子
 住友銀行 本間 洋子
 富国生命 山崎 修代
 石見 範子

富国生命 鈴木智恵美
 千代田生命 篠田真由美
 京王百貨店 宮内紀久恵
 日本銀行 天野 君子
 山一証券 鎌田 和子
 三菱信託銀行 小林 敏子
 " 木原美奈子
 東洋工業 深江 鏡子
 積水化学 山本 真弓
 セネラル石油 石川富美子
 文京区役所 川島京子

文京区役所 若栗 律子
 住友商事 矢口美枝子
 農林中央金庫 山越美智子
 住友金属 吉田 静代
 安田火災 渡辺美佐子
 東京海上火災 木田 恵子
 ニッカウイスキー 外川 恵子
 " 西沢 智恵
 三菱銀行 内島千賀子

昭和47年度同窓会役員名簿

役職	氏名	卒業年組	電話
会長	渡辺 剛 彰	20 A	811-7704
副会長	西岡 弘 雄	20 C	811-6311
〃	赤坂 正 雄	20 C	0498-31-2925
会計	太田 敏 夫	26 A	0492-61-8169
監査	最上 誠太朗	24 A	813-4481
〃	市川 昌 平	31 B	918-7949
書記	鈴木 美枝子	47 H	811-0545
〃	山崎 修 代	47 D	203-8760
総務	京極 声 健	46 C	961-5840
簿記	荒瀬 あゆ美	46 F	908-7706
報知	榊原 芳 江	47 G	822-1867
同窓会館	内島(畑川)千賀子	47 I	460-7366
ス	佐々木 庸 子	43 F	946-5872
ダ	中島 誠 一	36 C	821-7350
ン	福本 照 久	47 A	983-8742

編集後記

どうにか「紫筍」十七号出来上りと相成りました。七月頃、最初の編集会議の「ああもやろ、こうもしたい」とプランを立てたのが、まるで夢のようです。

原稿が集まらぬ、という悩みをさんざ聞かされたもので、暮れの忙しい中を速達便で送って下さった方の原稿に接した際はただ涙……。結局のところ「今、現在の文京は」といった形で在校生の皆様の協力を得てまとめ上げたいです。

編集委員としていたらなかった我身を悔いると共に、原稿をお寄せいただいた方々、在校生の皆様、太田、西岡両先生に深く感謝いたします。

どうもありがとうございます。

編集委員 榊原芳江

文京高校同窓会報

紫 筍 〈第17号〉

昭和48年 2月20日発行

発行 文京高校同窓会

編集者 榊原芳江・芝山裕子
横山和夫・飯田文夫

印刷 シミズ印刷

電話 (821) 1635